

## 令和元年度 第2回 広報広聴モニター会議録

日 時 令和元年11月11日(月) 13:25 ~ 15:20  
場 所 端野総合支所2階 第3・4会議室  
出席者 市民環境部 井上次長  
市民の声をきく課：藤井課長、新谷係長(市民相談係)、高橋係長(広報係)  
端野総合支所市民環境課：中野課長  
モニター：12人中9人出席

1. 市民環境部次長あいさつ
2. 出席者・欠席者数報告
3. 本日の日程説明・・・ 新谷係長
4. 広報きたみ等について・・・ 高橋係長

### (1) 広報きたみ7～11月号について

#### ①7月号

表紙(オホーツクサイクリング)、プレミアム付商品券、エリザベス市姉妹都市提携50周年、キラメキきたみ人(北見、マドレオホーツク代表)、なるほど健康メモ(北見医師会)、歯っぴータイム(北見歯科医師団)、まちの話題(北見1件、他3自治区から2件ずつ)、インフォメーション(自治区のおしらせ～官公庁から)、健診日程・日曜当番医、市民ホール催しもの案内、北見の歴史あれこれ

表紙写真では、最後の開催となるオホーツクサイクリングを周知するため、昨年開催時のものを使用した。

#### ②8月号

表紙(ピアソン記念館グリーンコンサート)、教育委員会からのお知らせ、上下水道局からのお知らせ、おんねゆ温泉開湯120周年、中小企業振興プラン、COOL CHOICE in 北見、ワーク・ライフ・バランス、キラメキきたみ人(北見、ハス池オーナー)、まちの話題(端野1件、他3自治区から2件ずつ)、インフォメーション(自治区のおしらせ～官公庁から)、健診日程・日曜当番医、市民ホール催しもの案内、北見の歴史あれこれ

夏場の号は比較的ページ数が少なめになる傾向にあるが、巻頭の特集ページが多かったこともあり、全34ページと厚い号となった。

#### ③9月号

表紙(はすまつり)、北見市の人事と給与、防災の日、北見市長選挙、高齢者相談支援センター、キラメキきたみ人(常呂、車いすカーリングチームコーチ)、まちの話題(北見1件、他3自治区から2件ずつ)、インフォメーション(自治区のおしらせ～官公庁から)、健診日程・日曜当番医、市民ホール催しもの案内、北見の歴史あれこれ

#### ④10月号

表紙(小中学校夏休み作品標本展)、秋の火災予防運動、キラメキきたみ人(端野、農業青年大

学)、まちの話題(北見1件、他3自治区から2件ずつ)、インフォメーション(自治区のお知らせ～官公庁から)、健診日程・日曜当番医、市民ホール催しもの案内、北見の歴史あれこれ

⑤11月号

表紙(東相内小学校の稲刈り実習)、決算報告、アイヌの民族衣装展、キラメキきたみ人(北見、たまコロ販促担当者)、まちの話題(北見1件、他3自治区2件ずつ)、インフォメーション(自治区のお知らせ～官公庁から)、オンブズマン制度、COOL CHOICE in 北見、健診日程・日曜当番医、市民ホール催しもの案内、北見の歴史あれこれ

⑥メール@きたみの登録勸奨運動

5月末～9月末までを強化月間として設定し、登録勸奨運動を行った一環で広報きたみ6～9月号の表紙に案内分とQRコードを配置した。

(2) 端野自治区お知らせ版7～11月号について・・・ 中野課長

(3) 「市長への手紙」の集計報告について・・・ 新谷係長

市長への手紙は毎年、広報きたみ6月号に掲載。テーマを定めず、広く市民の皆さまからご意見ご要望をいただいている。令和元年9月30日現在の集計では、103名から131件のご意見をいただいているところ。昨年の同期と比べると、人数で3人、件数で23件の減少。上位5項目は、①市民環境部…広報・広聴関係20件②社会教育部…スポーツ施設整備・振興関係15件③都市建設部…道路・橋梁・河川の維持管理、市道認定・整備、道路の除排雪など15件④都市建設部…公園整備・管理、緑化・街路樹関係など11件⑤市民環境部…交通安全関係で7件。

記名73名・匿名30名で、記名で投書されたものには市長名での文書回答または担当部署が直接訪問・電話で回答している。緊急なものや内容確認が必要と判断した場合は担当課から本人にご連絡し、直接対応している。自治区別では、北見自治区94件、端野自治区3件、常呂自治区0件、留辺蘂自治区6件で、概ね例年同様の比率となっている。年齢別では70代から34件で最も多い。60～70代の方からの意見が多い傾向も例年と同様。

主なご意見は翌年度の広報きたみ6月号で市長への手紙を募集する際に、前年度1年間の集計を掲載している。昨年度から、ご本人の同意があった一部の意見・要望については、市役所担当課の回答も併記して掲載した。

(4) 広聴に使用する様式の一本化について提案・・・ 藤井課長

市長への手紙、市ミントボックスなど、書面による広聴という点で変わらないが、始めた経緯や時期の違いにより、それぞれ独自の様式を使用している。今般、より利用しやすい広聴手段とするため、それらの様式を統一することを考えている。この場で新様式(案)をモニターにお渡しし、本日または次回の会議で意見をいただきたい。

## 5. 意見交換（要約しています）

モニターA：広報きたみ9月号、保育所の無償化についての記事はわかりにくく感じました。

市民環境部次長：確かに難しい記事だったと思います。この記事については広報係と、制度を所管する保育課とで、わかりやすくするために何度も話し合いを重ねて編集したものではありませんが、今後の編集作業においても十分気をつけてまいります。

モニターB：全ての号とは言いませんが、年に1・2回でもカラーで出せないものでしょうか。もう一点、広聴の新様式について、仮のタイトルが「あなたの声をまちづくりに」とありますが、これは強制されているような印象を持ちました。「わたしの声をまちづくりに」だと言葉が優しいのではないかと思います。それから、ごみの出し方についてですが、町内会の区域外の方が、マナーの悪い排出方法でごみステーションを使うという問題が長年起きています。なんとか解決できないものでしょうか。先ほどの広聴の新様式の中に「例えば、ごみの出し方で～～」など、例文が入っていると利用者が書きやすいのではないのでしょうか。

市民の声をきく課長：ごみの排出の件については、それに関する啓発記事を増やすべきというご意見でしょうか。

モニターB：やらないよりはやった方がいいと思います。

市民の声をきく課長：担当する廃棄物対策課という部署に話しておきます。

モニターC：以前の広報よりも文字が大きくなっていたり、読みやすい構成に変わっていたりという変化があって、工夫を感じました。8月号の巻頭特集「ワーク・ライフ・バランス」について、「第3ステージ」という欄が見開きの左右に掲載されていて、まるで別のもののように見えてしまいました。ステージごとにまとめて掲載するレイアウトの方が伝わりやすかったと思います。

端野自治区お知らせ版の新刊案内について、本のタイトルだけでも改行してあれば読みやすいのではないのでしょうか。掲載位置を変えてみるという案もあると思います。

広報係長：ワーク・ライフ・バランスの記事については、編集時に私と担当課とで意見が分かれた点でした。今いただいた意見を元に、読む人目線を意識して担当課との折衝にあたりたいと思います。端野自治区お知らせ版のレイアウトについては、担当者にお伝えいたします。

モニターD：メール@きたみを利用しているのですが、送られてくる回数が多いと感じます。みんとボックスについて、私の知人が「意見を出したのに対応されていない」と言っていたことがありました。匿名で出した意見だったのだらうと思いますが、ホームページに掲載するなど、意見への対応を示してほしいです。

広聴の新様式については、匿名でなければ出たくないという人に配慮し、「できれば名前を書いてください」などの1文があればいいと思います。

広報の表紙写真について、ホームページ上で元の画像データを公開し、QRコードから見られるようにするなど、インターネットと連動したやり方はできないでしょうか。

広報係長：メール@きたみについては、カテゴリーごとの登録になっています。毎週来るのが煩わしいものについては、登録を外すなどしていただければ解決できるかと思います。表紙写真のホームページ掲載については、データサイズの大きいファイルを公開しないよう市役所内に指導している立場なので少し難しいところです。公開しているPDFでカラー版を公開できるかなど、検討してみます。

市民の声をきく課長：みんとボックスは、9割近くが無記名ですね。無記名の方に対する市の回答・対応の示し方については、新様式の取り扱いと合わせて、来期に向けた検討対象とさせていただきます。

モニターE：広報のページごとに端についているグレーに白抜き文字は見づらいです。それから広聴の新様式について、記名方式は抵抗があります。あと、近所の散策をしていて感じるのですが、最近とみに木の数が減っています。切るようになった理由・減らす理由を広報に載せてほしいです。

広報係長：見出しでグレーに白抜きの部分は、「ここはそのページではありません」という意図です。あえてしている部分ですね。

市民環境部次長：木の伐採については、生い茂っていて信号が見えづらいたとか、老木になり危ないところだとか、理由があって切っているものです。伐採の理由を広報に載せるかどうかは、担当課と話してみます。

モニターF：催しもので、介助がつくかどうかについての記載を入れられないでしょうか。

広報係長：対象となる方の人数・状況がわからない中で、「介助をご用意しています」という一文を入れることは現実的には難しいです。申し込みがあるものであればその際にご相談

いただく・申し込みが不要なもので、ご自身に不安があるという方については、事前にお問い合わせいただくということが、双方にとってリスクの少ないやり方になると思います。

モニターG：広報紙でカラーは難しいということはわかりました。それであれば、8月号や11月号のように、陰影がはっきりしている写真を選んでもらえれば合しやすいと思います。それから市長への手紙で、常呂が0件というのは、常呂の人にとって北見市長が遠い存在のように感じられているのかもしれないと思いました。自治区長あてのものがあればもう少し出しやすいかもしれません。

市民環境部次長：市長への手紙について、3自治区からのものが現状少ないということは、自治区長職を置いていることで、住民にとって市長への手紙を介さなくても話をしやすい・問題を解決しやすい環境ができていることではないかと受け止めています。もちろん、市長への手紙については、どの自治区から届いたものも全て同じ取り扱いをいたしますので、お住いの自治区にかかわらず、ぜひご利用していただきたいと思っております。

モニターH：広聴の手段として、市長への手紙やみんとボックス、市長へのポストなどいろいろありますが、これらができた経緯や目的・趣旨などをそれぞれお聞かせいただきたいです。

市民の声をきく課長：確認して、後日お知らせしたいと思います。

Iモニター：広報きたみの各記事には担当課の連絡先が付記されていますが、記事の最後に「提案・意見を市長への手紙に送ってください」という文言を添えてQRコードなどを掲載した方が、たくさん来るのではないのでしょうか。

市民の声をきく課長：広報きたみから電子媒体での意見投稿につなげてはどうかというご意見です。広報きたみ表紙には北見市ホームページのURLが記載されていて、こちらから市長へのポストという方法を選んでいただくことができますので、ぜひ活用していただければと思うのですが、各記事にその旨を入れるということは掲載スペースの問題がありますので、慎重に検討させていただきます。

6. 今後の予定について 次回は2月に、昼食懇談会を伴う会議を開催する予定。開催案内と合わせてレポート用紙を送り、レポートの提出をお願いします。